

1年 2組 国語科学習指導案

日時 4年11月17日(木) 5時間目
場所 1年2組教室

本時のねらい
「しごと」と「つくり」を表す言葉に着目することで、「しごと」に応じた「つくり」になっていることに気づき、クレーン車について説明することができる。

1 教材名 じどう車くらべ(全7時間)

2 教材について

本単元は、はじめに2つの問いの文があり、その問いに対して、それぞれの自動車の答えを見ながら読み進める構成の文章である。どの自動車についても「しごと」→「そのために」→「つくり」という構成になっており、児童にとっては読み取りやすい文章であると考えられる。一つ一つの言葉に着目すると、「しごと」と「つくり」をつなぐ「そのために」という言葉や、「ひろい」「大きい」など自動車のつくりを詳しく説明している言葉も繰り返し使われており、それぞれの言葉の意味を確かめながらより詳しく読むことができていくようにしたい。

また、次単元「じどう車ずかんをつくらう」では、児童がそれぞれ紹介したい自動車を選んで自動車図鑑を作る言語活動が設定されている。本や図鑑などの資料から「しごと」と「つくり」などの必要な情報を選び出すことができるよう、本単元でも見直しをもって指導していきたい。

3 児童の実態

本学級の児童は、様々な学習活動に意欲的に取り組むことができる児童が多く、楽しみながら活動している様子が見られる。「くちばし」の学習では、それぞれのくちばしの形の違いを腕や手先を使って表現しながら比べる様子が見られた。また、国語の教材やひらがなの学習で出てくる言葉に対し、「○○って何？」と興味を示すなど、言葉の獲得に意欲的な児童が多い。

一方で、自分の考えを発表したり交流したりすることに苦手意識をもつ児童が多く、活発な意見交流をすることが難しい。その原因として、児童に「できた」「わかった」という実感があまり無く、大勢の前で考えを述べることに自信がもてないということが考えられる。

これらの実態を踏まえ、児童が楽しみながら学習内容を身に付け、「できた」「わかった」と実感できるように学習活動の工夫が必要であると考えた。

4 研究に関わって

【研究内容1】

単元を通して、「しごと」→「そのために」→「つくり」の順番で説明されているということに気づかせ、必要な情報を選び出すことができるようにする。また、単位時間の中で扱う重要な語句については別紙単元構造物に位置付けた。

【研究内容2】

「生きてはたらく言葉」を身に付けさせるための指導方法や学習活動の工夫
文章中に出てくる言葉について抑絵と箱びつけて考えたり、「もし○○じゃなかったら？」と問い返したりすることで、具体的なイメージをもって言葉に身に付けることができるようにする。また、終末に「じどう車はかせ」としてその自動車について説明する活動を位置付け、話す内容を録音して聞き直したり、修正したりすることで、本時の学びを確かめることができるようにする。

【研究内容3】

「生きてはたらく言葉」が身に付いたかどうかの評価方法と指導・援助の工夫
ワークシートに線を引かせ、言葉と抑絵が正しく結びついているかどうかを評価する。終末では、録音した「じどう車はかせ」の音声を教師に送信させて評価する。

5 本時の展開 (5/7)

つ	か	む	ふ	か	め	る																											
1 本時の学習内容と課題を確認する。 クレーン車の「しごと」と「つくり」をせつめいしよう。																																	
2 音読をする。																																	
3 クレーン車の「しごと」と「つくり」をまとめる。																																	
<table border="1"> <tr> <td>しごと</td> <td>おもいもの</td> <td>クレーン車</td> </tr> <tr> <td>しごのために</td> <td>をつり上げる</td> <td></td> </tr> <tr> <td>つくり</td> <td>うでがのびたり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>しごのために</td> <td>うごいたりする</td> <td></td> </tr> <tr> <td>つくり</td> <td>うごいたりする</td> <td></td> </tr> <tr> <td>しごのために</td> <td>うごいたりする</td> <td></td> </tr> <tr> <td>つくり</td> <td>うごいたりする</td> <td></td> </tr> <tr> <td>しごのために</td> <td>うごいたりする</td> <td></td> </tr> <tr> <td>つくり</td> <td>うごいたりする</td> <td></td> </tr> </table>							しごと	おもいもの	クレーン車	しごのために	をつり上げる		つくり	うでがのびたり		しごのために	うごいたりする		つくり	うごいたりする		しごのために	うごいたりする		つくり	うごいたりする		しごのために	うごいたりする		つくり	うごいたりする	
しごと	おもいもの	クレーン車																															
しごのために	をつり上げる																																
つくり	うでがのびたり																																
しごのために	うごいたりする																																
つくり	うごいたりする																																
しごのために	うごいたりする																																
つくり	うごいたりする																																
しごのために	うごいたりする																																
つくり	うごいたりする																																
4 「しごと」と「つくり」をたしかめる。 ○「つり上げる」という言葉について、動作化をして確かめる。 「持ち上げる」との違いが分かるようにする。 ・魚釣りや似ていて、ひもを使って上に上げるんだよ。 ・「持ち上げる」は、そのままを使って荷物を持つこと。 ○「うで」「あし」が指している部分を抑絵と合わせて確認する。 ○なぜ「のびたり うごいたり」するのかを考え、仕事との関わりを確かめる。 「のびたり ちぢんだり」では荷物を移動させることができるかということを確認する。 ・「のびたり ちぢんだり」するだけだと、同じ場所にとどまっているだけで、荷物を他の場所へ運ばないから、「のびたり うごいたり」する。 ○「もし、あしがつかりしてなかつたら、」と問い返すことで、仕事との関わりを確かめる。 ・もし、あしがつかりしてなかつたら、重いものを釣り上げたときに、ふらふらしちゃって運べないよ。 5 クレーン車の「しごと」と「つくり」を説明する。 ○「じどう車はかせ」になって、クレーン車の「しごと」と「つくり」を説明する練習をする。 ○クレーン車の「しごと」と「つくり」を確認する。 クレーン車は、重いものをつり上げる仕事をしています。そのために、丈夫な腕ののびたり動いたりします。重い荷物を持ったときに傾かないように、しっかりとした足がついています。																																	
6 本時の学びを確かめ、次時への展開をもつ。																																	

研究内容にかかわって	留意点・指導・援助	【評価規準】
【研究内容1】 単元(本時)で身に付けさせたい「生きてはたらく言葉」の明確化 ・これまでの学習場を振り返りながら、「しごと」→「そのために」→「つくり」の順で説明されていたことを想起させ、本時でもその順で説明されていることに気づいて必要な情報を選び出すようにする。 ・本時で扱う重要語句 ・つり上げる ・のびたり、うごいたり ・じようぶ ・そのために	・バスや乗用車、トラックの学習内容を想起することができるように、掲示しておく。 ・児童のワークシートと同じものを拡大して板書に位置付ける。 ・「しごと」と「つくり」をまとめるために児童には、これまでの学習場から、「しごと」→「そのために」→「つくり」の順に説明されていたことを思い出させ、必要な情報を選び出してまとめることができるようにする。 ・箱にひもを付けた荷物の模型を用意しておき、動作化をすることで「つり上げる」と「持ち上げる」の違いが分かるようにする。 ・抑絵と本文を対応させて、「うで」「あし」がどの部分を指しているかを確認する。 ・体をクレーン車に見立て、片足で立った時と両足で低い姿勢をとったときでは、どちらが安定するかを確かめる。 ・自分が話す内容を録音し、聞き直したり修正したりできるようにする。 ・録音した音声はローノートで提出させる。	【研究内容2】 「生きてはたらく言葉」を身に付けさせるための指導方法や学習活動の工夫 ・「のびたり ちぢんだり」ではだめなの？ ・問い返して、実際に動く様子を想像したり、動作化したりして、言葉と動きをつなげて考えることができるようにする。 ・もし、うでが丈夫じゃなかったら？ ・もし、あしがつかりしてなかつたら？」と想像させることで、仕事とつくりの関係を確認できるようにする。 【研究内容3】 「生きてはたらく言葉」が身に付いたかどうかの評価方法と指導・援助の工夫 ・クレーン車について説明する音声を録音し、聞き直したり修正したりする。録音した音声はローノートで教師に送信させ、クレーン車の「しごと」と「つくり」を捉えている。(思C(1)ア) ・ワークシート、「じどう車はかせ」の音声

学習内容と単元構造図 単元名「じどう車くらべ」

<単元目標>

- ◎事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思(1)ア)
- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知(2)ア)
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思(1)ウ)

<評価規準>

- 【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)
 - 【思・判・表】「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア)
 - 【態】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)
- 進んで文章を読み、説明における順序の重要性を知ること、自分が説明するときにかいたいことを見つげようとしている。

単元導入時の児童の願い

身の回りにはいろいろな動く自動車がある。それぞれの自動車がどんな「しごと」をしているのか、どんな「つくり」になっているのかが知りたい。

単元を貫く言語活動

じどう車の「しごと」と「つくり」をしらべて、じどう車はかせになろう。

第1次

<第1時> 単元の導入

知っている自動車について交流すること、それぞれの自動車には「しごと」があることに気づき、「しごと」と「つくり」を比べて読むという学習の見通しを持つことができる。

はたらくじどう車には、どんな車があるのだろうか。

身の回りの自動車が思い浮かばない児童には、教科書の挿絵から、知っている自動車を見つけられるようにする。

出し合った自動車がどんな仕事をし、それぞれを考えると、「しごと」があることに気づかせる。

生きてはたらく言葉
・比べる
・しごと
・つくり
・そのために

<第2時> 内容の把握

問いの文や、どんな自動車が紹介されているかを確かめること、文章の構成に気づき、内容の大体を捉えることができる。

「じどう車くらべ」をよんで、どんなことがかかれていたか、たしかめよう。

これまでで説明文の学習を振り返って、同じような問いの文を見つけて、2つの問いがどのようにする。

問いの文は色を分けて線を引くことで、2つの問いがあることを視覚的に理解できるようにする。

生きてはたらく言葉
・比べる
・しごと
・つくり
・そのために

<第3時> バスや乗用車

「しごと」と「つくり」を表す言葉に着目することで、「しごと」に応じた「つくり」になっていることに気づき、バスや乗用車について説明することができる。

トラッカの「しごと」と「つくり」をせつめいしよう。

「しごと」を赤「つくり」を青で線を引き、問いの文と対応していることが視覚的に分かるようにする。

「にだいに」の意味が分かるように挿絵に印を付ける。

自分が説明している様子を録音することで、学びを振り返ることができるようにする。

トラッカの動画視聴し、「しごと」と「つくり」について理解を深めることができるようにする。

生きてはたらく言葉
・座席
・広い狭い
・大きい小さい
・そのために

<第4時> トラック

「しごと」と「つくり」を表す言葉に着目することで、「しごと」に応じた「つくり」になっていることに気づき、トラックについて説明することができる。

トラッカの「しごと」と「つくり」をせつめいしよう。

「しごと」を赤「つくり」を青で線を引き、問いの文と対応していることが視覚的に分かるようにする。

「にだいに」の意味が分かるように挿絵に印を付ける。

自分が説明している様子を録音することで、学びを振り返ることができるようにする。

トラッカの動画を視聴し、「しごと」と「つくり」について理解を深めることができるようにする。

生きてはたらく言葉
・(運転席の)ほか
・荷台
・広い狭い
・たくさん(多い)少ない
・そのために

<第5時> クレーン車(本時)

「しごと」と「つくり」を表す言葉に着目することで、「しごと」に応じた「つくり」になっていることに気づき、クレーン車について説明することができる。

クレーン車の「しごと」と「つくり」をせつめいしよう。

「しごと」を赤「つくり」を青で線を引き、問いの文と対応していることが視覚的に分かるようにする。

「うで」「あし」が分かるように挿絵に印を付ける。

「つり上げる」の意味が分かるように動作化をして確かめる。

自分が説明している様子を録音することで、学びを振り返ることができるようにする。

クレーン車の動画を視聴し、「しごと」と「つくり」について理解を深めることができるようにする。

生きてはたらく言葉
・つり上げる
・のびたり、うごいたり
・じょうぶ
・そのために

第2次

<第6時> 説明の順番

自動車の説明されている順番やその理由を考えることで、身近なものから順番に説明すると、読む人が分かりやすいということに気づき、構成の意図を捉えることができる。

「じどう車くらべ」は、どうしてこのじゆんばんでせつめいしているのかかんがえよう。

自動車の挿絵を用意し、順番が変わるとどんな印象を受けるか想像しやすいうようにする。

挿絵だけではなく、本文を読み返すことで、内容に着目しながら説明の順番の良さを考えてみるようにする。

生きてはたらく言葉
・比べる
・しごと
・つくり

第3次

<第7時> はしご車

はしご車の「しごと」と「つくり」を考えてまとめること、どの自動車でも既習の文型が使えることに気づき、次単元への見通しをもつことができる。

はしご車の「しごと」と「つくり」をせつめいしよう。

はしご車を知らない児童もいると考えられるため、写真や動画を用意する。

「そのために」という言葉がどのように使われているのかを振り返り、「しごと」と合う「つくり」を選択してまとめることができるようにする。

生きてはたらく言葉
・そのために

終末でもたせたい意識 今後の活動の見通し(生活や学習にいかす)

それぞれの自動車は、その「しごと」に合った「つくり」と「つくり」も調べて、みんなに紹介したい。